

## WCRR 2022 が開催されました

2022年6月21日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

第13回世界鉄道研究会議（WCRR 2022）が、6月6日から6月10日まで英国鉄道安全標準化機構とバーミンガム大学との共催により、英国バーミンガム市バーミンガム国際コンベンションセンターにおいて開催されました。

WCRR（World Congress on Railway Research）は、鉄道に関する研究の価値の向上、技術情報の共有、国際協力の推進を目的として、国際鉄道連合、米国 MxV Rail 社、英国鉄道安全標準化機構、フランス国鉄、ドイツ鉄道、イタリア鉄道および公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）による組織委員会により運営されています。

第13回となる今回は、バーミンガム大学と欧州鉄道産業連合も組織委員に加わり、以下の概要で開催されました。

- テーマ 「Reshaping our railways post-pandemic: Research with an impact」  
（パンデミック後の鉄道の再構築：インパクトのある研究）
- 参加者 世界 20 か国以上から 700 名以上。  
日本からは約 60 名が参加し、鉄道総研からは 22 名が参加しました。
- プレナリーセッション  
3つのプレナリーセッションが開催され、組織委員会メンバーや、欧州を中心とした鉄道事業者、研究機関およびメーカー等の代表によるパネルディスカッションが行われました。日本からはセッション2「Research with an impact: celebrating success」で鉄道総研古川理事が登壇し、日本における地震対策の成果、汎用通信回線の無線式列車制御への適用による低コスト化および日本の鉄道における脱炭素化に係る研究開発の方向性などを紹介しました。

	セッション名	セッション名（邦題）
1	The railway in a post-covid transport landscape	ポストコロナの交通事情における鉄道
2	Research with an impact: celebrating success	インパクトのある研究：成功を祝う
3	The journey to rapid benefit realization	迅速な利益実現への道のり

- 研究発表 オーラルセッション 178 件（鉄道総研から 10 件）、インタラクティブセッション 129 件（鉄道総研から 8 件）が行われました。
- 表彰 研究発表 307 件から最優秀論文賞など 9 件が選定され、日本からは、鉄道総研の依田裕史副主任研究員の「Improvement of the Wireless Power Transfer System for Railway Vehicles（鉄道車両用非接触給電システムの性能向上）」が最優秀若手研究者賞に選ばれました。

次回の WCRR は、2025 年（夏～秋）、MxV Rail 社主催により米国コロラドスプリングスで開催されます。



写真1 プレナリーセッション2「Research with an impact: celebrating success」（6月8日）  
（上段：ディスカッション、下段：集合写真（右側2番目が鉄道総研 古川敦理事））



写真2 最優秀若手研究者賞 依田裕史副主任研究員



写真3 鉄道総研による JR グループの展示ブース

(報道機関問い合わせ先)

公益財団法人鉄道総合技術研究所総務部 広報 TEL : 042-573-7219